

視点 4

現状

- ・ 教育資源を活用した体験的な学習はある程度進めている
- ・ 教員がカリキュラム・マネジメントを発揮し、企業等の専門家を招いた授業を年間計画に位置付けることが必要である。



地域を愛し、学校を愛する心を養う

- 1 教育資源の活用を推進
 - (1) 行政・関係機関との連携
テンプル大学、文楽体験、模擬選挙、租税教室などの体験的な学習をさらに拡大
 - (2) 新たな教育課題への対応
法教育、消費者教育、ガン教育を推進
 - (3) 企業が実施しているキャリア教育プログラムの活用
おそうじ教室、水育、金融教育の導入
- 2 地域の行事への積極的な参加
児童・教職員が地域の祭りやPTA行事などに積極的に参加
- 3 学校地域支援体制の確立を準備
より多くのプログラムを実施するために地域コーディネーターの導入を準備

その他

- 1 学校の教育活動の理解啓発を図り、地域・保護者の協力を得るために、積極的に情報発信を行う。
 - 保護者会や学校ホームページ等を活用し、学校経営の方向性を周知
 - 学校ホームページの充実
 - 各種の方法による学校の取組の周知（校長通信等）
- 2 教育活動の改善の迅速化を図る。
 - 評価を短期的に実施し、教育活動の改善を早期に実施
 - 学校行事後に実施する反省に基づき、次年度の計画案を年度中に立案し、必要な情報を発信